

## Abstract

## 血友病患者の全膝・全股関節置換術における感染症発症頻度：HIV 感染が流行した 27 年間における単一施設の経験

Knee and hip arthroplasty infection rates in persons with haemophilia: a 27 year single center experience during the HIV epidemic

D. L. Powell, C. J. Whitener, C. E. Dye, J. O. Ballard, M. L. Shaffer and M. E. Eyster

全関節置換術 (TJR) は慢性血友病性関節症の治療選択肢の 1 つである。これらの手術は技術的に容易ではなく、装具装着部の感染症発症頻度が高く、これは特にヒト免疫不全ウイルス (HIV) 感染症例で著明である。今回我々は、血清 HIV 抗体陽性および陰性の血友病患者における全膝・全股関節置換術後の深部感染症発症頻度を決定した。1975 ~ 2002 年にかけて地域の血友病総合医療施設において 32 例に対して、51 件の一次関節置換術が施行された。術前に血清 HIV 抗体陽性であった患者と手術以降に抗体陽性化した患者には、装具計 30 個が装着された (術前陽性症例 14 個, 術後陽性化症例 16 個)。手術時の年齢の中央値は、血清 HIV 抗体陽性の 19 例では 33 歳 (20 ~ 61 歳), 陰性の 13 例では 35 歳 (26 ~ 74 歳) であった。経過観察期間の中央値は、

83 か月 (2 ~ 323 か月) であった。装具・年当たりの一次感染率をポアソン回帰によって HIV 感染群と非感染群とで比較した。HIV 感染の有無別で比較した、関節置換術施行後の関節における一次感染症発症頻度を主要評価項目とした。51 関節のうち、5 関節 (9.8%) で深部感染症が発症した。非感染群では 204.15 装具・年において感染症が 2 件発症し、感染群では 205.28 装具・年において 3 件発症した。100 装具・年当たりの感染症発症頻度は非感染群で 0.98 件、感染群で 1.46 件で、HIV 感染による発症頻度の増加は認められなかった (相対危険度: 1.49, 95% 信頼区間: 0.25 ~ 8.93,  $p = 0.66$ )。これらの結果から我々は、適切な臨床的状況では、HIV 感染は膝・股関節置換術の禁忌とはならないと結論した。

	Patients with deep infection ( $n = 6$ )		Patients without deep infection ( $n = 26$ )	
	HIV-negative ( $n = 2$ )	HIV-positive ( $n = 4$ )	HIV-negative ( $n = 11$ )	HIV-positive ( $n = 15$ )
Number of joints infected				
TKR	2	3	0	0
THR	0	1	0	0
Number of arthroplasties				
TKR	3	6 (1)	13	13
THR	0	2	5	9 (2)

Numbers in parentheses indicate number of primary joints which were replaced for mechanical failure.

HIV, human immunodeficiency virus; THR, total hip right; TKR, total knee right.

Table 1. Outcome of 51 primary arthroplasties and three revisions in 32 haemophiliacs.